



芭蕉ゆかりの古刹 新大仏寺と
平松宿めぐり

伊賀市

子延、平松、富永

津城下から長野峠を経て上野城下へといたる道筋は、伊賀街道と呼ばれます。俳聖・松尾芭蕉も越えたという長野峠から街道沿いを西へ進めば、今も宿場町の面影を残す平松宿や、古刹・新大仏寺などがあり、訪問者に昔話を語りかけてくれます。また、近くには散策の疲れを癒す複合温泉施設「伊賀の国 大山田温泉」さるびの」もあります。

今回は、伊賀市東部(旧大山田村)を横断する伊賀街道周辺をめぐります。

取材・文：中村真由美



「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」



「子延橋」



平松宿の家並み

「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」

今回の散策の起点は、「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」です。山あいに点在する各施設では、ゆっくり温泉につかったり、パンやこんにやくを手作りしたり、キャンプやゲートボールを楽しんだり、充実した時間を過ごせます。車を利用する場合、名阪国道中瀬ICから約20分ですが、公共交通機関の場合は、伊賀鉄道「上野市(忍者市)」駅から三重交通バスに乗りすると、45分ほ

どでバス停「大山田温泉」に到着。本数が少ないため、事前に時刻表を確認しておくとういでしょう。

伊賀街道の宿場町

「まずは、平松宿へ向かいましょう」との案内で、南へ進みます。田園風景を眺めながら歩くと、やがて目の前に小さな石橋が現れました。服部川に架かる「子延橋」です。橋を渡ると光景は一変し、道の両側に家並みが続きます。ここが平松宿で、むしこ窓や連子格子



■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。



などに風情を感じます。

伊賀街道を整備したのは、慶長13(1608)年に伊勢・伊賀二国の大名となった藤堂高虎です。官道として多くの人々や物資が行き交った街道沿いには、いくつかの宿場町が設置されました。平松宿もその一つですが、実は当初は違う場所であり、上阿波宿と呼ばれるしていました。しかし、元禄7(1694)年から3年連続で大火に見舞われたため、同10(1697)年に移転したのです。



芭蕉句碑



木造如来坐像(国指定重要文化財)



石造基壇



「猿蓑塚」

左側の三角形の句碑は天明8(1788)年建立

貞享5(1688)年のこと。石の台座の上に仏頭だけが安置された様子を目にして嘆き悲しみ、「丈六に 陽炎高し石の上の句を詠みました。お話の句碑は、安永9(1780)年に建立されたもので、どっしりとした自然石に、句などが刻まれていました。

「芭蕉が目にした仏頭は、享保年間(1716〜36)に一部修復され、木造如来坐像となりました。今は『宝物庫・新大仏殿(有料)に安置されています』と案内されて同館へ。高さ約3メートルの像は、苦難の歴史を感じさせない穏やかな表情をして、優しく語りかけて



高さ約2メートルの道標

平松宿へ宿場の機能が移転した後、上阿波宿は「元町」と呼ばれたことなどを教わりながら歩を進めると、案内板と、自然石の道標が目にとまりました。前者には、平松宿の沿革に加えて屋並図などが記され、町の全体像がわかります。後者には「右大佛」などの文字が刻まれ、新大仏寺への近道を教えてくれています。

なお、屋並図には「伊勢や」「板や」「すみや」などと屋号が書いてありますが、町の人々は、現在でも屋号で呼び合うのだそうです。また、庇屋根に七福神などをかたどった瓦が並ぶ、旧旅籠「いたや」は、町の景観を代表する存在でしたが、惜しまれつつ数年前に解体されました。



「大山田郷土資料館」内部



旧旅籠「いたや」の瓦の一部



新大仏寺の大仏殿

した。しかし、瓦は新大仏寺近くの「大山田郷土資料館」に展示してあると聞き、次は同資料館をめざします。

「大山田郷土資料館」から 新大仏寺へ

平松宿から歩くこと数分、周囲を山に囲まれた場所にたたずむのが新大仏寺。「大山田郷土資料館」はそのすぐ近くにありました。お話の「いたや」の瓦は、2階で見ることができました。七福神に加えて、ネズミをかたどった瓦などもあり、解体前の様子がある程度、想像できました。

「では、新大仏寺に行きましょう。大

いるかのようにでした。なお、館内には、俊乗坊重源上人坐像、創建当初の石造基壇(台座)などの重要文化財も収納されています。

「猿蓑塚」へ足を延ばす

新大仏寺に別れを告げて、帰途につきます。その途中で「阿波地区市民センター」に隣接する体育館が目にとまりました。旧大山田東小学校の木造体育館で、今でも地域の人々に親しまれていると伺いました。

同センターから終点の「伊賀の国大山田温泉さるびの」までは約1.9キロメー

きな芭蕉句碑もありますよ」と案内されて、境内を奥へと進みます。四季折々に花々が咲き誇り、秋の紅葉も見事な同寺の歴史は古く、奈良の東大寺を再建した俊乗坊重源上人が、建仁2(1202)年に創建した伊賀別所に始まるとされます。別所とは、本寺から離れて修業・仏事を行うために営まれた別院のこと、創建当初は、岩盤の上に堂が建ち、金色に輝く丈六(高さ約5メートル)の阿弥陀三尊像(快慶作)が安置されていたと伝わります。しかし、江戸時代初期の暴風雨によって、堂も三尊像も崩壊してしまいました。

俳聖・松尾芭蕉が同寺を訪れたのは、

トル。街道周辺の史跡をめぐる散策もこれで終了ですが、余裕があれば、足を延ばして「猿蓑塚」に立ち寄るのもおすすめです。元禄2(1689)年に長野峠を越えた芭蕉がこの地で詠んだ「初しぐれ猿も小蓑をほしげ也」を刻んだ句碑で、周囲は小公園として整備されています。車の場合、同温泉から約10分、前述の三重交通バスの場合、終点「汁付」バス停から徒歩約15分の距離で、国道163号線沿いにあります。

問 大山田観光ボランティアガイド会
(大山田郷土資料館)月・火曜日休館
TEL 0595-4810303